

好転反応

都合よく使っていませんか？

好転反応とは主に東洋医学で使われる用語で、施術等を受けた後に一時的にみられる身体反応をいいます。瞑眩（メンケンまたはメンゲン）と表現される人もいます。また、もみ返しなどの症状を利用者が心配しないようにと、ソフトに好転反応という人もいます。

共通している症状は、主訴または体質が改善に向かう時に一時的に現れるもので、副作用とはまったく別なものです。

会員からの相談で、本会が聞くだけでも以下のような何種類もの症状があり、要因も多岐におよびます。

- ① だるさ・眠気・ほてりを中心とする症状
- ② 発熱・吐き気・湿疹等の解毒作用と思われる症状
- ③ 筋肉痛症状
- ④ 骨格のバランスが変わったことによる違和感
- ⑤ 主訴が一時的にぶり返したように思える症状

☆☆☆

施術の翌日以降に症状が出たとの連絡を受けた利用者への対応には注意が必要です。他の要因による症状の場合もありますので、好転反応によっても起こるという理由だけで「好転反応だから何日か経てば解消されます」と即答はできないと思われます。この場合は利用者から症状をよく聞き、好転反応かどうか見極める必要があります。

自分の変化が気になり連絡してきた利用者の不安を取り除きたいばかりに、質問か報告かも確認せず、好転反応に重きをおいた説明はクレームの火種となりえます。

中でも上記分類の③④⑤に類する症状を訴えている場合、この言葉は控えましょう。

安易に自分の都合だけで好転反応という言葉を使用することは、利用者の状況や心情に配慮した説明とはいえず無責任や責任逃れと取られ、利用者に不信感を芽生えさせることがあります。そういった場合には、後日「あなたの言葉を信じて我慢したが良くならなかった」とお叱りを受けることにもなります。

このようなケースは経験が豊富な施術者や、自分の知識や手技に自信がある施術者が陥りやすい傾向にあります。

最悪の場合、長年ご利用いただいていた利用者でも一言で信頼を失うこともありますので十分な注意が必要です。

特に近年は東洋医学以外の健康食品や化粧品等の副作用回避として、この言葉が用いられるケースがあり、好転反応という言葉に「良くないもの」というイメージを持っている人もいますので、気軽な使用は厳に慎む必要があります。

☆☆☆

もし、施術後に好転反応という表現で、施術によって起因する反応を説明するのであれば、「施術は慎重に行っています」と前置きした上で、体調や体質による個人差はありますが、人によっては好転反応が強くなる場合があることも説明します。

さらに「気になることがあれば気軽にご連絡ください」と付け加える習慣を身につけましょう。

好転反応という言葉は、何度かご利用いただいている方から「前回は施術を受けてから2～3日間違和感が出たけれど、その後はかえって楽になった」とありがたい報告をいただいた時に、この表現を用いて施術の有効性を説明するようにしたいものです。

ONE POINT

「好転反応」だけではなく、利用者への説明に普段使っている言葉の意味や使用法を再確認してみてもいいかもしれません

JHA NEWS

・施術トラブル/クレーム 対応無料電話相談・JHANEWSの発行・会員保障制度など

国家資格者
会員種別
正会員A 準会員

すべての手技療法家、施術家に
安心・安全を提供します

入会金無料

民間資格者
会員種別
正会員B

【ご不明な点・詳細につきましては、お気軽にお問合せ下さい】



一般社団法人 日本治療協会

URL: <http://www.jha-shugi.jp>

◎ JHANEWSのバックナンバーはホームページでご覧いただけます ◎

TEL: 03 (5289) 8171

FAX: 03 (5289) 8173

受付: 10:00 ~ 18:00 (平日)

受付: 24時間年中無休

郵送先 〒101-8691 郵便事業株式会社 神田支店 私書箱46号

E-mail: info@jha-shugi.jp